

朋友

ほう ゆう

第2号

2009(平成21)年
3月31日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 幸田昌三

「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教壮
年会連盟発足にあたり、仏社
会員が力を合わせ、ともに歩
みを進めていこうという願い
から名づけられました。

東京教区

住職を対象に問答集作成

東京教区基幹運動推進相談員

松本 智量



「活性化専門委員会」を 基推委の中に設置して

一般寺院住職を ターゲットに

東京教区の仏壮、今、沸々と熱
いです！

東京教区では二〇〇六(平成十八)
年度より教区基幹運動推進委員会
(基推委)の中に「教化団体活性化
専門委員会」(二〇〇六年度は部会、
二〇〇七年度以降専門委員会)を
設置しました。

名称には「教化団体」と掲げてい

ますが、ターゲットは壮年会にし
ばったもので、委員構成としては
教区仏壮連盟の役員経験者の他、
これまで壮年会活動にあまり関
わってこず、自坊にもまだ単位会
をお持ちでない僧侶にあえて委嘱
をしました。単位会の新規結成を
促すには、まだ結成にいたってい
ない住職の声を反映させることが
効果的と考えてのことです。

東京教区では数年来、各組担当
による結成記念日研修会実施など、

特集

教区の「仏教壮年会」拡充活動

仏壮活動を盛り上げる機運は見
えながらも、それがなかなか単
位会結成につながってこなかっ
たという実情がありました。組
役職者との協力が必要ではあつ
てもそれだけでは不十分との考
えから、役職者以外の一般寺院
住職を対象とした具体的な対策
を講じ実践することを目的とし
て活性化専門委員会の設置に
至ったものです。

住職へのアプローチで 成果あり

活性化専門委員会ではまず、
いままで仏壮を持たずにきた住
職にいかにもアプローチするかの
検討から始め、仏壮に対して持
たれているであろう疑問を抽出
しながらそれに答える「問答
集」を作成しました。そしてそ
れを手に教区相談員として各組
の組内会におじゃまして、仏壮
結成を一般寺院住職に直接訴え
る巡回を開始しました。今年度
は教区内二十四組中七組にうか
がい、率直かつ有意義な話し合
いを持っています。結果とし
て、三年前まで八十台前半で長

く留まっていた教区内仏壮の単位
数が、現在は九十の万台に乗るに
至りました。これは活性化専門委
員会の成果と自負するものです。

基推委が 仏壮を全面バックアップ

仏壮を活性化することの重要性
は、東京教区の共通認識となりつ
つあります。その現れとして、二
〇〇九(平成二十一年)年度の教区基
幹運動計画書には、教化団体活性
化専門委員会を柱として仏教壮年
会の増強を目指すことを重要な基
本方針に掲げ、教区仏壮連盟の活
動を基推委として積極的にバック
アップしていくと明記することと
なりました。

また、教区連盟では大遠忌に向
けて、単位会結成の数値目標を設
定しています。活性化専門委員会
としてはそれを受け、地域や寺院
それぞれの事情と環境に応じた提
案をしていく中で、単位会新規結
成を促していきます。また、活性
化委員会を増員し、機動力のある
活動展開を企画中です。他教区で
の取り組みもぜひ参考にさせてい
ただきたいと存じます。

合掌



兵庫教区

全国仏壮会議
第19回

「全国仏教壮年兵庫大会」 —全国の仏壮四五〇〇名が

結集—盛大に!

兵庫教区仏教壮年会連盟理事長 平井孝彦

紅葉が色づく秋の好日和に恵まれた十一月二日、全国各地より阪神・淡路大震災後十三年目を迎えた復興の地、神戸ポートアイランド・ワールド記念ホールでの第十九回全国仏教壮年兵庫大会にご門主様はじめ多くのご来賓にご臨席をいただき、開催できましたこと、担当教区として大いなる誇りと喜びであります。

開会に先立

ち、震災で被災した兵庫の地のパネル展とあしなが育英会が遺児に対する心のケアのために建設した「レインボーハウス」への募金にご協力をい



ただきありがとうございます。

全国より結集いただいた四四八四名の朋友でうめつくされた満堂のホールの中を、全国仏教壮年会議の旗に先導されご門主様が入場され、続いて北海道教区・沖縄特区の南北から各教区の連盟旗が続き、参加人員も報告され最後に担当する兵庫教区の二二七〇名のアナウンスに大きなどよめきと共に心の奥より熱いものが込み上げ、感動の極みでした。

本大会の開催には、二〇〇五(平成

一七)年の東海大会終了後に次期開催を第三連区が担当する事になり、その後の協議を重ねる中で最終的に兵庫教区が担当する事となりました。当時の全国仏教壮年会議の田中章生会長が兵庫教区におまかせではなく、第三連区として共に協力して行こうとの声を上げていただき、全国大会の実行委員会の副大会長に各教務所長、同じく副実行委員長に各教区仏壮連盟理事長に就任、参画いただき心強く第一歩を踏み出せました。

当時の兵庫教区では、全国仏壮の連盟化と大会を担当する事の議論が活発に行われましたが、小林元彦前理事長の熱き想いと仏壮の結束力並びに教区基幹運動推進委員会・各教化団体・組長会等の皆様の力強いご支援とご指導の賜物と感謝を申しあげます。実行委員会として運営を(一)受付誘導部(二)庶務部(三)行事部の三部会に分け企画と運営スタッフとして支えていただいた多くの仏壮会員の皆様には改めて感謝を申しあげます。

本大会は、仏教壮年会議として最後の大会となりましたが、「現生正定聚」という大会テーマの通り、いままさに仏の智慧を得たなかまが同じ信心に生き、御本願にうなづき、いのちの尊さと平等にめざめ、生きる喜びを分かち



合う朋友の強い連帯感と仏壮の存在の意義を確認できた大会であったと確信しています。

新たに連盟としてスタートを切った仏教壮年会連盟、大会宣言文をもう一度思い返し、綱領を唱和して、力強く第一歩を踏み出し、行動実践に邁進することを重ねて誓いましょう。

合掌

北豊教区

組連盟を中心にした
活性化を―上毛組の取組み―

北豊教区評議員

角倉吉治



活動は仏婦・総代会と合同で

上毛組仏婦連盟発足から三十六年になります。発足当時は十八ヶ寺中十三ヶ寺に単位会が有り活発な活動がなされていましたが、会員の高齢化や新規会員が増えない等紆余曲折もあり、現在十ヶ寺の単位会で活動を行っています。組連盟では組織の拡充活性化を図る為、仏婦独自で行っていた研修会を、組基幹運動推進委員会の協力のもと数年前より仏婦、仏婦、総代会の三教化団体合同で行っています。仏婦の無い寺院でも、仏婦、総代会は組織されており、組内全ヶ寺での門信徒同朋の交流が図れ、意義ある活動だと思っています。今後は十一月に神戸で行われた全国仏教壮年兵庫大会での節談説教や落語家による講演等を取り入れ、研修活動をより身近で気軽に参加できるようにしたいと思っています。法要、法話も勿論大切な事ですが、まずお寺に足を運んでいただく機会（ご縁）を考案し実行しています。

在京門信徒と研修会開催

研修事例として、平成二十年六月二日～四日に行われた上毛組三教化団体合同研修会を紹介します。在京門信徒の集い十周年記念行事を兼ね、又関東御旧跡巡拝もセットで開催いたしました。まず千鳥ヶ淵戦没者墓苑での平和を築く法要、次在京門信徒と合同で築地別院において記念法要を勤め、築地別院内の紫水にて在京の方との懇親会を行い、有意義な時を過ごせました。翌日は親鸞様ゆかりの常陸の国、大覚寺、西念寺を訪ね、宗祖への思いをますます深めたことであります。さて世間では未曾有の経済危機により、人心のやすまる所無き様に思われますが、世のなか安穏なれと示され、ともにいのちがやく世界へとスローガンを立て前進する宗門のもと、親鸞様のみ教を信じ共に手をたずさえて活動していきたいと思っています。

備後教区

連区の仏壮研修会
にむけて意気込み

備後教区評議員

石井輝美



単位会・組連盟結成活動

連盟化の目的は、仏壮活動の活性化にあります。今までの活動の見直しと、〃ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ〃ていくことにほかなりません。

備後教区では、連盟化に伴い新規約の徹底と、未登録単位会への登録を働きかけております。現状は、二百六十四ヶ寺・十六組の中で、単位会は五十九、組連盟は四となっており、単位会の結成率は二十三日（全国二十五・八%）にとどまっています。単位会の約七十五%（四十五ヶ寺）・組連盟四単位の全てが北部方面に集中し、単位会が一ヶ寺もない組が五つあります。又、単位会活動も活発な所もあれば、登録のみの所もあり、地域によつて寺によつて相当の開きがあります。

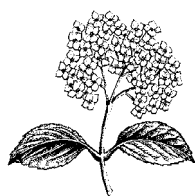
研修会での交流をきっかけに

【親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息】の中に、一層の創意工夫をこらした活動を進めていくことと述べら

れておられます。仏壮活動は、問題が山積しておりますが、それが当たり前ととらえ、創意と工夫が何よりも大切であると思います。

教区では、年一回の総会（研修会）と夏期研修会を行っています。夏期研修会では参加者が微増の傾向にあります。又、幸いにも有縁の方々のご尽力により、平成二十年七月に比婆組仏婦連盟の発足記念大会がありました。発足に至るまでには、各単位会の研修会に始まり十四年の歳月を要しています。地域の事情を考慮しながら、まず近くの単位会同士・組同士の交流を積極的に働きかけていく、そういった取り組みが必要です。

平成二十二年度には、〃第九回第四連区仏教壮年会員研修会〃の担当教区でもあり、〃おぬし〃が変わらなければ仏婦は変わらないという意気込みをもって、全員参加へと結びつけていきたいと思っています。



浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟

各種委員会取り組み報告

組織拡充委員会

委員長 松山 誘季（宮崎教区）

① 所掌事項

- ・ 仏教壮年会連盟の組織拡充にかかる施策
- ・ その他

② 委員会報告

- ・ 各教区に対し総会資料、「組織教化活性化専門部会」の活動現況並びに組連盟の結成状況の報告を依頼し、教区の実態把握を行い、課題を見つけて取り組みを進める。
- ・ 単位会結成を推進するため、連盟役員や結成経験者等を、寺院仏壮のない寺院や休会中の単位会に派遣するなどの方策を検討する。
- ・ 単位会結成の具体的な成功事例を調査する。
- ・ 各教区に、「連盟活性化委員会(仮称)」を設置し、教区仏教壮年会名簿の整備を促進するなどの具体的な方策を検討する。
- ・ 教区において、単位会代表者や住職等を組代表者会議の場に案内し、仏壮活動への理解や協力を積極的に求めている。各理事と組長、組基推委員との合同会議等についても検討する。

③ 今後の展望

仏教壮年会議が連盟化になって、早一年

となりました。それぞれの単位仏壮が、組織を作るといって一つの目標に向かって動き出しております。

毎年開催されます教区の仏壮大会で、各組長さん達に話しておりますが、なかなか一歩を踏み出せない寺が動き出すためには、まず住職の理解が必要だと考えております。組織の充実、そのまま寺の繁盛、個々の生き方の道しるべにつながることを多くの方に分かっていただきたいものです。

合掌

研修委員会

委員長 小西 正明（安芸教区）

① 所掌事項

- ・ 「幹部養成研修会」
- ・ 仏教壮年会連盟「結成大会」
- ・ その他

② 委員会報告

- ・ 二〇〇八(平成二十)年度「幹部養成研修会」

期 日：二〇〇九(平成二十一年)三月七日(土)～八日(日)

目的：宗門の基幹運動をより強力に推進するため、仏教壮年会連盟の幹部並びに若きリーダーとしての意識の高揚と自

覚を深め、仏教壮年会活動の推進者を養成することを目的とする。

テーマ：明日の宗門と仏壮の役割

受講対象：各教区二名。可能な限り、教区の若手会員（四十歳代程度）と中堅会員（五十歳代程度）の二名を派遣してもらうよう依頼する。

※参加者には書籍『朋友』浄土真宗入門のてびき』を持参してきてもらい、教材とする。

・ 仏教壮年会連盟「結成大会」のテーマを「新たな始まり〜朋友の輪をひろげよう〜」とする。

③ 今後の展望

研修委員会としての今後の展望については、研修委員会の皆さんとよく話し合い、活動内容をよく検討し、ベクトルを合わせて進めていきたい。

まずは仏教壮年会活動を通して、一つは朋友の輪を拡げ、仏壮会員の会員増に力を入れること、二つめは、よき縁、よき出会いを大切に、「信心」の教えを学び、「聴聞」を大切に、宗門の基幹運動をより強力に推進できるように、次代の仏教壮年会活動の推進者の育成と子や孫たちに「人間力」を身に付けた報恩感謝心を大切にする次の世代の育成を基本に活動していきたい。

広報委員会

委員長 山中 長一郎（東京教区）

① 所掌事項

- ・ 仏教壮年会連盟機関紙『朋友』

- ・ 連盟ホームページの検討
- ・ その他

② 委員会報告

- ・ 機関紙の名称を『朋友』とする。
- ・ 創刊号(第1号)は十月、第二号は三月の発行。
- ・ ホームページを開設する準備を進める。

なお、公開予定は二〇〇九(平成二十一年)度とする。

- ・ 「印刷発行部数の増刷」「配布基準の見直し」「配布方法の再検討」など広く親しまれる「朋友」に向けて必要な検討をしてゆく。

③ 今後の展望

「広報委員会」は、機関紙やホームページを通して全国の仏壮会員との一体感を育み、綱領に基づいた社会の実現をめざし私たちの活動を広く内外に発信していきます。

「朋友」は紙面のカラー化などを進めて一層読みやすく、また一人でも多くの会員に読み親しんでいただける充実した機関紙になるようにすすめてまいります。

教材委員会

委員長 中村 嘉伸（奈良教区）

① 所掌事項

- ・ 仏教壮年会連盟教材
- ・ 仏教壮年会連盟会員式章の検討
- ・ その他

② 委員会報告

・ 仏教壮年会連盟会員式章を制定する方向で準備を進めていく。

- ・会員式章について、恒常的な連盟の事業とすることができるよう、検討していく。
- ・今後、仏壮バッジについて、規約に盛り込むかどうかについても検討する。
- ③ 今後の展望

それは良い年であるようにと願い、日々を送っていると思います。

仏壮連盟となり、まもなく一年が経とうとしています。各教区、組、寺院でもいろいろと考えて活動していただいていると思います。委員会では二〇〇九(平成二十二)

年十月十日(土)本願寺において、実施予定されている、仏教壮年会連盟「結成大会」に向け、全国仏壮連盟共通の式章を制作してはとの話があり、現在デザイン、色などについて検討中です。この件については、今後報告いたします。

教材委員会としては、仏壮会員が必要と思われる出版物についても考えていきたいと思っています。

仏壮活動の活性化に向け、会員の皆様の協力をお願いいたします。

熊本教区

熊本教区

仏教壮年会連盟の

現状と活動

熊本教区仏教壮年会連盟理事長

三嶋 統 吾



六ブロックに分けた大会を開催

熊本教区は、九州の中心に位置する熊本県に位置しています。寺院数は四百六十九ヶ寺、組数二十八組で構成され、全国三十一教区でも多いほうです。

教区の活動は、年次大会(総会)、夏季理事一泊研修会と冬季会員研修会、年二回の理事会を開催しています。今後、理事会を充実するために役割ごとに編成して全員参加の活動にする必要があると思いますが、財政等の関係で思うように進まず悩んでいます。

又、「仏壮の集い」を毎年教区全体で開催する代わりに、組を六ブロックに編成して、教区主催のブロック大会

を開催しています。各ブロックの組が持ち回りで開催のお世話をしますが、各組の仏壮会員の皆様が開催準備等ご苦労される中で、同朋意識の昂揚につながっていると思います。

組連盟化で単位会拡充を図る

広報教材活動面では、年二回「サンガ」という広報誌を発行し、『朋友』浄土真宗入門のてびき』等の教材を、総会、各ブロック大会等で紹介して販売促進しています。

さて、仏壮の結成拡充についてですが、現在単位仏壮結成寺が百ヶ寺弱、組仏壮連盟化が約半数強です。先ず組仏壮を全組連盟化していただくように

現在取り組んでいます。しかしながら単位仏壮の拡充がなかなか進みません。単位仏壮の結成には、機会ある毎に結成を根気よく、あきらめずに、呼びかけていくことが大切だと思っています。



寄稿

仏教壮年会の役割

備後教区比婆組仏教壮年会連盟会長

秋山 保



はじめに、私と仏教、そして浄土真宗とのかわりからお話しさせていただきます。

はじめてお寺にお参りしたのは、六歳か七歳の頃だったと思います。祖母に連れられて野の花を眺めながら喜んでお参りしました。でも、そのお寺は浄土真宗ではありませんでした。喜んでお参りしたのは訳があったので

す。お寺に行くと、お菓子や飴などが子ども達にもらえ、お赤飯も頂けました。

その当時(昭和二十五年頃)は、甘いお菓子がなくて、お寺で頂けるのがとても楽しかったです。戦争が終わり貧しい田舎の村では美味しいお菓子などは手に入らなかったのです。父や母とお参りした記憶は無いのです。

戦後の貧しい生活を支えていくのが、忙しかったのでしよう。それから祖母のお参りが小学六年生まで続きました。が、祖母の死とともに縁が切れた。やがて社会人となり結婚し、義父の死に出会い、再び縁をいただきました。この縁が、浄土真宗だったのです。お寺様との付き合いが始まり(西念寺) 仏教壮年会に入会し、やがて門徒推進員養成連続研修会を受講し、修了とともに、門徒推進員中央教修を修了し、門徒推進員となりました。

今や世界中は勿論日本においても恐ろしい事件が毎日のようにテレビや新聞のニュース等で報道されます。親子を、子が親を、他人においてはもっと恐ろしいテロ事件等数えればきりがありません。私たち仏壮会員として、南無阿弥陀仏のお念仏とともに宗祖親鸞様のみ教えを心に、御同朋の社会をめざして、身近なところから活動していかねばなりません。

各地方地域によって寺院のおかれる状況は異なると思いますが、めざすところは同じです。できれば一人ではなく寺院における仏教壮年会、仏教婦人会、門信徒の会、その他寺院に有する会の代表の方たちと常に合同の会議をもって共同でできる行事等を計画するものひとつの案ではないでしょうか。

現在の社会において、私たちが一人でも多くの人たちに親鸞聖人のみ教え

を伝え広めていくことが平和な社会を望んでいる人たちの力となっていくでしょう。

世界、そして日本の未来を担ってくれる子どもたちに、キッズサンガを通して南無阿弥陀仏そして浄土真宗の、ありがたいみ教えに導くとともに、新しい出会いが素晴らしい世界を作れることを学びましょう。

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を目前にして、私たち仏壮会員は念仏の声を子や孫に世界に、御同朋の社会をめざして、みんな手をつなぎ一步一步身近なところから広めていくことができれば幸いです。

南無阿弥陀仏

ぶつぎょうそうねんかいれんめい
仏教壮年会連盟 綱領

ぶつぎょうそうねん
 われわれ仏教壮年は、

みづか
 自らの生き方を

しんらんしょうにん
 親鸞聖人のみ教えに聞き、

ねんぶつもう
 ともにお念仏申す朋友の

わ ひろ
 輪を拡げ、

こころゆた
 心豊かに生きる社会の

じっげん
 実現をめざします。

全国仏教壮年会 教区別単位会結成状況

NO	教 区	単位数	結成率	寺院数
1	北海道	74	21.5%	344
2	東 北	43	28.5%	151
3	東 京	89	20.0%	444
4	長 野	20	18.2%	110
5	国 府	6	5.4%	111
6	新 潟	38	27.7%	137
7	富 山	10	3.5%	289
8	高 岡	29	9.5%	305
9	石 川	25	25.0%	100
10	福 井	50	13.1%	383
11	岐 阜	42	15.2%	276
12	東 海	51	18.0%	283
13	滋 賀	256	42.6%	601
14	京 都	62	27.6%	225
15	奈 良	91	21.6%	422
16	大 阪	75	8.7%	858
17	和歌山	14	5.0%	278

NO	教 区	単位数	結成率	寺院数
18	兵 庫	266	34.7%	766
19	山 陰	86	19.6%	439
20	四 州	10	3.4%	295
21	備 後	59	22.3%	264
22	安 芸	136	24.7%	551
23	山 口	69	26.5%	638
24	北 豊	52	30.8%	169
25	福 岡	240	57.7%	416
26	大 分	76	26.0%	292
27	佐 賀	175	65.5%	267
28	長 崎	11	8.6%	128
29	熊 本	97	20.7%	469
30	宮 崎	43	49.4%	87
31	鹿児島	98	57.6%	170
32	沖 縄	1	7.7%	13
合 計		2,494	24.3%	10,268

2009(平成21)年2月現在

法話

チェンジと チャンス

仏教壮年会連盟活動推進講師

松月 博宣



アメリカの新大統領オバマ氏は国民に「チェンジ」を訴え、今年一月二十日アメリカ合衆国第四十四代大統領に就任したことは記憶に新しい事です。

泥沼化し出口の見えない対テロ戦争や、格差が急速に拡大する社会など、いわば『暗い時代』の中で、オバマ氏の「チェンジ」(変化・変革)という言葉に、リーダーとしてのその力強い意思と決意を感じ、閉塞感を持っていた国民は「何かが変わる」と、『明るい未来』への期待感を持ったのかも知れません。

オバマ氏の演説が注目されていますが、その言葉に力強さがあることに多く起因しているようです。

親鸞聖人は『愚禿鈔』で善導大師の「前念命終 後念即生」(命が終

わるときに、ただちに浄土に生まれる)、『往生礼讃』を

本願を信受するは、前念命終なり。

「すなはち正定聚の数に入る」と。

即得往生は、後念即生なり。

「即の時 必定に入る」と。

【註釈版聖典五〇九頁】

と解釈され、親鸞聖人自らの歓びを言葉にしておられます。

命終というと、この身が死んでいくことと考えがちですが、親鸞聖人は本願信受の時、つまり、南無阿弥陀仏(「まかせなさい。そのまま救う、仏になったよ」)が聞こえてた時を、ここでは命終であると言われているのです。

ですから命終とは、身体の死ということではなく、「我が身をたのみ我が心をたのみ、我が力をはげみ我

がさまざまな善根をたのむ」(一念多念証文)心、つまり悟りに至るに有効と思っていた自力の心の死をあらわし、悟りへの道は自力心は邪魔にこそなれ役に立たない「すべて他力のほかはない」と、阿弥陀さまの一方的な救いの働きに頭が上がりない状態と言われるのです。

これを私は「この世を全てとして生きていた私が、この世を越えた量ることの出来ないアミダの世界に生きていく私に育てられる」、少し違う表現をすれば「古い自分が死に、新しい自分に生まれる」と味わいたいのです。

つまり信心を恵まれた私の在り方に変化・変革が生まれ、私が再生される、といってもいいのではないかと領解しています。

この世を全てとする生き方であった私、つまり小さな殻に閉じこもっていた私が、この世を包み込むほどの大いなるものである阿弥陀に出会い、その殻から脱出させてもらえる大いなる歓びと、この人生を阿弥陀さまがご一緒に下さるという頼もしさの中で生きていける私に育てられることに他なりません。

私たちは親鸞聖人によって開顕された阿弥陀さまの言葉、ナモアミダブツに人生を転じ(チェンジ)られていくのです。

先日の評議員会で武田事務局長さんが、チェンジ「Change」のスペルで、「g」を「c」に変えるとチャンス「Chance」になると教えていただきました。

私たちは壮年会を連盟化し組織の「チェンジ」を果たしました。それは私たち仏教壮年が自主的な聞法集団となろうということであり、それは取りも直さず私たち仏教壮年会員が自由闊達に活動する中で、阿弥陀さまに「チェンジ」させられるご縁をより多く持つことであり、その仲間(朋友)を自ら増やしていくということなのです。

この度の連盟化は、その動きを始める大きな「チャンス」(ご縁)に他ならないことを思うのです。



2009(平成21)年度 仏教壮年会連盟 活動方針・事業計画

1 スローガン

ともにいのちかがやく世界へ

2 活動方針

「親鸞聖人七五〇回大遠忌についての消息」を体して、仏教壮年としての新たな始まりを期して、自主・自営の活動を進め、組織の充実発展に向けて具体的に取り組み。一人ひとりが、親鸞聖人のみ教に学び、御同朋の社会をめざして、宗門の基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）を、一層強力に推進する中核となる。

「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともに一念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします」という「仏教壮年会連盟 綱領」の精神に沿って、積極的な活動を展開する。

3 重点目標

- (1) 仏教壮年会連盟「結成大会」〔二〇〇九(平成二十一年)年十月十日(土)〕を開催し、連盟化の意義を再確認するとともに、組織拡充に向けた取り組みを推進しよう。
- (2) 人権・環境・平和をはじめとする社会

の問題に取り組み、いのちの尊厳をまもろう。

- (3) 教区基幹運動推進委員会の組織教化活性化専門部会と連携協働して、寺院仏壮及び組仏壮連盟の結成と拡充に向けて邁進しよう。
- (4) 大遠忌にむけて教区内寺院数五十%以上の寺院仏壮、教区内全組に組仏壮連盟の結成をめざそう。
- (5) 連盟化記念出版としての『朋友―浄土真宗入門のてびき―』の購読促進と普及・活用に取り組みよう。

4 事業計画

- (1) 組織拡充活動
 - ① 仏教壮年として自らが積極的に参画・行動する。
 - ② 教区基幹運動推進委員会「組織教化活性化専門部会」において、仏壮の組織拡充課題が取り組まれるようはたらきかけるとともに、その進捗状況の点検を行う。
 - ③ 全寺院を対象とする教区における「壮年の集い」の実施を支援する。
 - ④ 教区及び組における「基幹運動研修会」を実施するとともに、その充実をはかるよう、支援する。
 - ⑤ 各教化団体との積極的な交流をはかる。
 - ⑥ 連区連絡協議会の充実をはかる。
 - ⑦ 壮年教化のてびきシリーズ『一通の手紙から』・『一通の手紙から返信 寺院

の立場から』等を活用した寺院仏壮結成の活動を支援する。

- ⑧ 特定非営利活動法人「JIPPO」の活動に積極的に参加する。

(2) 研修活動

- ① 幹部養成研修会の充実をはかる。
- ② 教区及び組における若年会員の教化育成と幹部後継者の養成活動を支援する。
- ③ 『浄土真宗聖典(註釈版)』・『御文章ひらがな版』の普及推進をはかる。
- ④ 寺院・組における『季刊せいてん』を活用した学習会の実施を奨励する。
- ⑤ 地方連研及び中央教修への積極的参加ならびに中央仏教学院「通信教育」(入門課程)受講を奨励する。

(3) 広報活動

- ① 機関紙『朋友』を発刊する。(年2回)
- ② 慶弔規程の活用をすすめる。
- ③ 連盟ホームページの検討を行う。
- (4) 教材活動
 - ① 仏壮バッジの着用を奨励する。
 - ② 『本願寺新報』・『大乘』の購読奨励を行う。
- ③ 教材の研究開発を行う。
- ④ 仏教壮年会連盟会員式章の作成を行い、普及に取り組む。

5 生活実践

- ① 『浄土真宗の教章(私の歩む道)』のお心を味わい、日々の生活を送る。
- ② 家族をさそって朝夕の勤行をする。

③「本尊「いちよう」「きく」を子や孫に贈り、信仰ある生活の確立をめざす。

- ④ 寺院における行事へ家族ぐるみで参加する。
- ⑤ 青少年・幼年の育成につとめる。

*土曜・日曜の少年教化活動を奨励し、全寺院「子どものつどいーキッズサンガー」計画・実施に参画する。

- ⑥ 寺院での初参式・成人式・仏前結婚式等を奨励する。
- ⑦ ダーナ活動・ビハーラ活動に積極的に取り組む。
- ⑧ 「第二十九回 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」〔二〇〇九(平成二十一年)年九月十八日(金)〕への参拝を奨励する。

6 中央における行事計画

- ① 仏教壮年会連盟「結成大会」〔二〇〇九(平成二十一年)年十月十日(土)〕
- ② 評議員会〔二〇一〇(平成二十二年)年一月三十日(土)〜三十一日(日)〕
- ③ 理事会
- ④ 各種委員会(組織拡充委員会、研修委員会、広報委員会、教材委員会)
- ⑤ 仏教壮年会連盟活動推進講師会
- ⑥ 幹部養成研修会〔二〇一〇(平成二十二年)年三月十三日(土)〜十四日(日)〕

以上